

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記号)】			
事業所番号	4271200489		
法人名	有限会社 大東		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町里郷2343-2		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	令和4年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和 4 年 12 月 3 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者お一人ずつの個性を尊重し、あるがままを受け入れることで生活に張りのある生き生きとした暮らしができるよう、職員一同で意識を統一して介護に携わり健康維持に努めています。体調に異変が生じた際は速やかにかかりつけ医に連絡、診断を仰げる環境を整えており、リハビリ等含め経過観察を行い適切に対処いたしております。
地域密着型の介護サービスの中で、利用者の方が住み慣れた地域で安心して暮らすことができ、ご家族も近くに住まれて協力して頂いていることで良好な信頼関係が築けています。
ホーム内の一日の流れとしては、個人個人のやれることを中心に簡単なお手伝いをして頂き、健康体操、下肢筋力訓練、脳トレ、昔の歌の時間など生活感のある暮らしを目標として行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

東彼杵町で暮らしてきた方が多く入居されており、入居者が互いに友人・知人といった関係を持ち、親近感や安心感がある。リビングには季節に応じた作品を職員と一緒に制作して壁面に飾り季節感を楽しめている。居室は場所の間違いや混乱が起きないように入り口に名前札や矢印でトイレの方向を指し見当識に配慮されている。ホームでは身体機能の低下を防ぐため日に2回、健康体操や下肢強化訓練、脳トレやレクリエーション等を行っている。誕生日にはちらし寿司、クリスマス会には料亭の鉢盛りを提供するなど季節感や行事食等を工夫しながら、入居者の希望も考慮して食事を提供している。また、クリスマスプレゼントにマイ箸を贈るなど食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。東彼杵中学校よりグリーンリボンや防災用の巾着を頂いたり、運営推進会議に消防団員が参加し助言を得るなど、地域に根差したホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホームほのぼの

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔のある暮らしの定義を理念にあげ、ホームの正面玄関の見やすい場所に掲示し、スタッフ間で唱和している。	ホームの理念は、職員が目につく場所に掲示すると共に、スタッフ会議の際に理念を唱和し職員間で共有を図っている。新人職員が入職した際には、理念に関する説明を受け理解を深める機会を設けて意識づけを図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者は地域で長年暮らしてこられている方であり、家族との関係も良好で、日常的に交流している。	ホーム長がホームの近隣に居住し、常務も地域の消防団や商工会青年部に所属しており、地域との関係を深めながら地域住民と情報交換を行っている。コロナ禍以前は中学生の職場体験学習を受け入れたり地域の夏祭りに参加するなどのほか、敬老会やクリスマス会等に地域住民を招き、交流を深めていた。ホーム長はコロナ禍が収束したら交流を再開する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の会合に出席し認知症の方への理解を深めてもらうよう説明している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進員の方は地域住民の方がほとんどで、年6回の開催に合わせホームの取り組み状況を報告し、アドバイスやご意見を経営に反映させている	運営推進会議は、消防団長兼家族代表、民生委員、元民生委員、元区長、行政担当者、地区役員、地域包括支援センター職員、事業者（施設長・管理者等）等を構成員とし、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍の状況を踏まえ、対面または書面会議形式にて行っている。各委員からの提案は議事録にも残し、参加する地域の消防団員からの助言や意見等を運営に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護更新時は認定調査員の訪問で利用者の生活ぶりや実際のケアを報告し、介護保険係とも連携を密にとり協力を仰いでいる。	同町職員や保健所よりコロナ関連情報の提供や指導・助言、感染予防に関する物品の提供等、連絡を取りながらホームの感染予防対策に反映している。地域包括支援センターには空床状況や入居相談対応等で連携している。同町からのアンケート調査にも積極的に協力している。管理者は介護保険更新手続き等で行政窓口を訪問し、意見交換等を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての職員で3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開いており、いかなる身体拘束も行わないケアを実践している	ホームでは身体拘束をしないケアを実践している。身体拘束適正化のための指針を作成し、ホーム内に掲示して職員への周知を図っている。定期的に身体拘束適正化委員会を開催して実践状況を確認し、身体拘束をしない工夫や取り組みを職員間で共有している。年間研修計画に身体拘束や虐待に関する研修の機会を設け、職員間で知識と意識を共有するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待を見逃すことがないようにスタッフ会議の中で定期的に虐待防止に関する勉強会を行い、実践に繋げている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年2回権利擁護に関する勉強会を行い、事例があった場合適切に対処できるように備えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は家族や利用者には十分な説明を行い、家族の質問にも丁寧に応じ納得を頂いており、書類を取り交わしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への要望は家族とも相談し、承諾いただいた上で物品購入を代行している	入居者の意見や要望は、職員が日頃の会話の中で把握に努めている。家族からの要望等は担当職員を中心に利用料金の支払い時や電話連絡時等に把握している。必要に応じてLINE、ZOOMなどを利用できるよう案内している。玄関に意見箱を置き、入居者や家族の意見を受け付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案はスタッフ会議で検討し、運営改善に向けて反映させている。	スタッフ会議を毎月開催し、入居者状況、行事、業務等について情報共有や検討を行い、ヒヤリハットへの取り組み等、必要な業務改善に繋がっている。3か月毎の身体拘束適正化委員会においても実践状況を共有し、職員意見の把握に努めている。職員の個人的な相談等については職員リーダーや管理者、ホーム長が随時聴き取るよう努めている。	介護職員の人材不足が続いていることを踏まえ、より良い職場環境を整備するためにも、今年度より強化が求められているハラスメント対策について、具体的に取り組むことで、より職員意見の反映に繋がる環境を組織的に整備することを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況に合わせベースアップを図り、やりがいや向上心を持って働いてもらえるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりの実力に合った研修を受けてもらい、仕事に反映してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホーム間で定期的に交流し、互いの施設訪問なども行い良きところを学びサービスの向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人と面接し、家族を交えて困っている事等伺い、ホームの現状を見学して頂き安心してもらうなど関係を大事にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の前では話しぶり事など家族に要望等聞く機会を設けることで関係性を築いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を検討される段階でグループホームの暮らし方を説明、見学してもらい、他のサービスも視野に入れ検討していただいている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできることを見極め、身体能力の活性を図る上でも共同作業を促している。洗濯物をたたむことや食器を拭くなどできることから取り組んでもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の訴えに耳を傾け、その内容を家族に相談し共に支えあう関係を大事にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	天候の良い日には本人の行きたい場所などを聞き、ドライブに誘うなどしている。ふるさと訪問や墓参り等の支援も行っている。	コロナ禍により地域行事が減少し、人が多い場所へ行くことを自粛している。尚、感染対策を講じ、新幹線の開通により完成した新駅を見学したり、ドライブを兼ね桜の名所を見学に行くなど支援している。コロナ禍のため馴染みの人との交流や外出を自粛しており、感染状況に応じて短時間の面会やドライブ外出等、馴染みの人や場所との関係継続を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が会話される時は難聴の方に配慮し、間に入る事で意思疎通を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が退所または転所された場合も、関係者を通して状況を聞くなど地域の一員として相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し思いや希望を聞き入れ安心した暮らしが送れるよう支援している。表現が困難な利用者には本人の立場に立って検討している。	アセスメントシートに入居者の情報を記載し、職員間で共有している。意思疎通が難しい入居者には、声掛けをしてその反応を見ながら本人の思いを汲み取り、家族からの情報も参考に把握に努め、その方の立場に沿った生活を支援できるよう努めている。入居者が発した言葉は「S」(said)と記載し、介護記録に残している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者が長年培われてきた暮らし方を尊重し個性に合わせた支援を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の心身状態を見極め散歩や買い物など外出支援を行い有する力を発揮してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時に、本人、家族、ケアマネと必要な課題を話し合い現場に即した介護計画を作成し実践することとし、3ヶ月に一回実践状況をモニタリングしている。	「ケアプラン管理表」を用いて介護計画に定めた短期目標に沿った実践状況を確認し、職員の介護計画への意識づけや計画の見直しに活かしている。職員はサービス内容毎に詳細な支援内容を記入しており、現状に即した介護計画の立案に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で担当を決め毎日個別記録をつけており、内容を全職員で共有しスタッフ会議で検討後その後のケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況や家族の事情に合わせ他の事業所への紹介なども含め柔軟に対応するなど適切に行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容室に同行したり、地域開催の茶市に出かけ散策を楽しむなど喜んでもらえるよう努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際にホームの連携医を紹介し家族を含めてかかりつけ医を決めていただき納得を得た上でドクターに相談している。	月2回、提携医による訪問診療が行われている。専門医等への受診の際にはホーム長または近隣の系列グループホームと兼務している看護師が送迎・同行・情報提供等の受診支援を行っている。入居者の状態に応じて必要がある場合には家族の同行も依頼している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の日々の体調を看護師に報告し受診の可否を判断してもらい、必要な場合は速やかに医療連携してもらっている。また、内服薬の処方があった場合は職員にわかりやすく説明してもらい支援につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院された場合は病状の経過を病院関係者に聞き早期退院に向け家族も含めて医療関係者と連絡を密にとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合は終末期の過ごし方を家族と話し合い家族の希望を重視した支援を心がけている。	看取りの指針を整備し、現在、107歳の入居者の看取り支援を行っている。医療的措置が必要となった場合は、主治医の診断のもと、家族と相談し今後の方針を決めている。看取り時期の判断及び家族への告知については医師を通じて行っている。人生会議(ACP)等、看取りに関する勉強会を行い、チームで看取りを支援できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の事故、急変時に速やかな対応ができるようスタッフ会議で話し合い、応急手当や初期対応など看護師を交え勉強会を持ち実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災や風水害、地震に備え定期的に避難訓練や消火訓練、地震発生時の対応など訓練や勉強会を行い全職員で共有している。また、火災を未然に防ぐためコンセント周りに埃が積もっていないかの確認など普段気がつきにくいことを話し合っている。	ホームでは定期的に消火、避難訓練を実施し、地域の消防団にも常務が加入し協力態勢を築いている。訓練では、手順・役割等を確認し、出火場所別に避難方法・避難場所を考慮し、実践的な訓練に取り組んでいる。訓練後には、参加者で訓練の振り返りを実施している。	有事の際の対応や役割分担について、職員への周知が十分ではなかった面が窺えた。有事の際の役割分担をホーム内に掲示したり毎月のスタッフ会議で再周知を図るなどの取り組みが望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個室に入る際は必ず声掛けやノックを行うなどプライバシーに配慮し、共同トイレを使用される際はカーテンを引くなど気配りを絶やさないようにしている。また、人格を尊重した言葉かけを実践している。	年間研修計画に「接遇マナー」を設け、人格尊重、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。職員は排泄の失敗に対する支援の場面ではさりげない声掛けに努めている。居室へ入室する際はノック及び声掛けを行い入室している。職員の入職時には守秘義務に関する誓約を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の訴えには耳を傾け自由に思いや希望を出してもらい可能な限り実現できるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者本位に立った接遇を心がけ1日を通して思いのままに過ごしていただくよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の服選びや整髪など本人の好みを重視した支援を行い1日快適に過ごしてもらっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員で行っているが後片付けの食器拭きやテーブル拭き等利用者数人がかりで積極的に楽しんで取り組まれている。	以前在職していた栄養士が立案した献立表を参考に、誕生日にはちらし寿司、クリスマス会には料亭の鉢盛りを提供するなど季節感や行事食等を工夫しながら、入居者の希望も考慮して食事を提供している。マイ箸やマイコップを使用し、クリスマスプレゼントにマイ箸を贈るなど食事が楽しみとなるよう取り組んでいる。テーブル・食器拭きなど入居者の残存能力を活かす場面があり、和やかな食事風景となっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各自の食事摂取チェック表を作成し栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず洗面所へ誘導し口腔ケアを行い、力不足の方には介助を、寝たきりの方には居室にてケアを行うなど適切な介助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を習慣付けてもらい、尿とりパッドの使用を減らして快適に過ごしていただけるよう支援している。	入居者の排泄介助方法・排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄、自立に向け支援している。尿取りパッド類の適正な使用についての検討し、家族への金銭面での負担にも配慮している。居室に置くポータブルトイレには布をかけ、配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行い、記録を通して便秘気味の方へは水分補給や健康体操を促すなどここにに応じた予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてあるがその日の体調に合わせて日時をずらすなどの工夫を行い、入浴が楽しみとなるよう支援している。	入浴は3日おきの午後からを原則とし、1日目は5人、2日目は4人の入浴を支援している。脱衣場や浴室はヒートショックに留意し、急激な温度差が生じないように冷暖房を設置している。入浴を拒否する方には無理強いしない支援を行い、入居者の気分や意向、体調等に応じて入浴日の変更にも対応している。湯船に入ることができない方には、シャワー浴、清拭等、状態に合わせて入浴を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所前の自宅での暮らしや生活習慣を大切に、自室で休憩したり昼寝をされたりとゆっくりした気持ちで自分の時間を過ごしてもらうなどして精神の安定につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師と共同し一人ひとりの薬の目的、用法、容量について記載したものを職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者それぞれの楽しみ事を理解し、ホーム内でできる事は手伝いながら取り組んでいただき、気分転換としてドライブに声掛けし誘っている。外の風景、季節の移り変わりを見ることで心が癒されるという利用者からの感想がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に墓参りを希望される方がおられ、場所を家族に確認しドライブがてら連れて行き一緒に手を合わせると安心される。また、その旨を家族に報告すると喜ばれる。	現在、コロナ禍のため外出を自粛しているが、時期や場所、感染状況等を勘案し、ホーム近隣への散歩や玄関前の椅子で外気浴を行うほか、大村公園へ桜や菖蒲を見学したり、受診時を利用してのドライブ外出等、可能な範囲で外出の機会づくりに取り組んでいる。コロナ禍以前は家族行事への参加や馴染みの場所への外出、関係者との交流なども積極的に取り組んでおり、コロナ禍収束後に再開する意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される利用者には小額を手持ちしてもらい外出支援時の買い物時に利用していただく。衣料品を購入される際などは好きなものを選んでもらい、その際必ず領収書を預かり後日家族に提示し事実確認していただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方に住む家族から電話があった場合は子機に切り替え直接会話していただくなど、双方が喜ばれるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は利用者が居心地良く過ごしていただけよう空調に気を配っており、採光も適度にありゆったりした気分で過ごされている。	感染症対策に留意し、玄関内にはビニールのシールドを設置し、手指消毒、検温と共に、共用空間の清掃、換気、次亜塩素酸水による拭き掃除等を行い、住環境の清潔保持に努めるとともに、除菌・空気清浄機、加湿器を設置し感染症への対策を講じている。、自然光で明るく開放的な雰囲気があるリビングには季節感のある作品を飾り、入居者が思いおもいに居心地よく過ごせるよう環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では自然な動きで気の合う者同士が隣同士となり、会話も弾まれ楽しく過ごされており暖かく見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には家族とも相談しながらグループホームの特色を生かした支援を心がけ、なじみの家具など持参していただき、居心地よく暮らしていただくよう努めている。	毎月、居室に設置している空調機の清掃を行っている。居室内には引き戸で収納できるスペースを設け、整理整頓を支援し、安全で快適な環境整備に努めている。居室には使い慣れた物や家族写真等を持ち込まれており、入居者の身体状況に配慮した家具の配置や温湿度の調整、行き届いた清掃など細やかな気配りが窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内では居室の入り口にネーム札を下げて本人が自室に迷わず入れるように工夫しており安全に配慮している。		